

## 透析部

### 1. スタッフ（2024年4月1日現在）

医師

部長（教授）	森下 義幸
医員（教授）	大河原 晋
（准教授）	平井 啓之
（講師）	伊藤 聖学
（助教）	宮澤 晴久
病院助教	北野 泰佑
	矢内 克典
シニアレジデント	8名
大学院生	1名
非常勤医員（講師）	2名
副手	1名
非常勤医員	3名

### 2. 各診療科の特徴

当院の透析部の特徴は透析導入施設としての役割に加え、中央部門である血液浄化センターとしての機能を果たしていることである。業務内容は維持透析患者で合併症を持つ患者の治療と、透析導入患者の管理が主体である。その他にもICU・CCUでの持続的血液濾過法の管理、血漿交換療法、二重膜濾過血漿交換法（DFPP）、顆粒球除去療法、血液吸着療法などの特殊血液浄化療法、血液疾患の治療で行われる血液幹細胞移植時の末梢血幹細胞採取など、幅広い血液浄化療法を管理している。また2013年より土曜日の血液透析が開始され、血液透析患者の透析管理を行っている。

認定施設

日本腎臓学会研修施設  
日本透析医学会認定施設  
日本急性血液浄化学会認定施設

専門医

日本内科学会専門医	11名
日本内科学会指導医	7名
日本腎臓学会専門医	10名
日本腎臓学会指導医	7名
日本透析医学会専門医	10名
日本透析医学会指導医	7名

### 3. 診療成績・クリニカルインディケーター

#### 1) 透析室での診療患者の内訳

血液透析は9,411件であった。腹膜透析患者は60名であった。特殊血液浄化療法は173件であった。末梢血幹

細胞採取・骨髓濃縮処理は59件であった。

#### 2) 腎代替療法導入の内訳

新規腎代替療法導入総数は120名で、血液透析110名、腹膜透析10名であった。

#### 4. カンファレンス

毎週火曜日午後4時から腎臓内科および透析カンファレンスを行っている。医師、看護師、臨床工学技士、栄養士、薬剤師の多職種により、主に患者の病態の把握、今後の治療方針の確認、透析条件の決定、栄養状態の把握と対策を行っている。

### 5. 研究、学会活動など

#### 2024年原著論文（英文）

- Ookawara S, Ito K, Sasabuchi Y, Ueda Y, Morino J, Kaneko S, Mutsuyoshi Y, Kitano T, Hirai K, Morishita Y. Hepatic Oxygenation Changes and Symptomatic Intradialytic Hypotension. *Kidney Blood Press Res.* 2024; 49 (1): 368-376. doi: 10.1159/000539277.
- Hirai K, Shimotashiro M, Okumura T, Ookawara S, Morishita Y. Anti-SARS-CoV-2 Spike Antibody Response to the Fourth Dose of BNT162b2 mRNA COVID-19 Vaccine and Associated Factors in Japanese Hemodialysis Patients. *Int J Nephrol Renovasc Dis.* 2024 May 17; 17: 135-149. doi: 10.2147/IJNRD.S452964.
- Hirata M, Ito K, Ookawara S, Tanno K, Morino J, Minato S, Mutsuyoshi Y, Kitano T, Hirai K, Morishita Y. Factors Affecting Psoas Muscle Mass Index in Patients Undergoing Peritoneal Dialysis. *Cureus.* 2024 Mar 17; 16 (3): e56347. doi: 10.7759/cureus.56347.
- Hirai K, Shimotashiro M, Okumura T, Ookawara S, Morishita Y. Anti-SARS-CoV-2 spike antibody response to the third dose of BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine and associated factors in Japanese hemodialysis patients. *Kidney Res Clin Pract.* 2024 May; 43 (3): 326-336. doi: 10.23876/j.krcp.23.121.
- Nakai S, Ito T, Shibata K, Ozawa K, Matsuoka T, Maeda K, Ohashi Y, Hamano T, Hanafusa N, Shinzato T, Ookawara S, Masakane I. Body fluid volume calculated using the uric acid kinetic model

6. Morino J, Hirai K, Morishita Y. A case of post-renal acute kidney injury caused by bilateral ureterolithiasis. Clin Case Rep. 2024 May 12; 12(5): e8825. doi: 10.1002/ccr3.8825.

1. 宮澤晴久, 森野諄紀, 金子昌平, 伊藤聖学, 大河原 晋, 森下義幸. IHDFへのモード変更により肝臓内局所酸素飽和度が維持され, 透析低血圧が予防できた一例. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page845.
2. 森野諄紀, 永池侑樹, 渡邊祐作, 澤田明宏, 平井啓之, 大河原 晋, 真鍋徳子, 森下義幸. 血液透析導入期に発症した特発性腰動脈破裂の1例. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page747.
3. 大河原 晋, 睦好祐子, 宮澤晴久, 植田裕一郎, 伊藤聖学, 森下義幸. 肝臓内局所酸素飽和度測定と透析低血圧予知. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page553.
4. 平井啓之, 下田代雅子, 園田時男, 奥村俊明, 大河原 晋, 森下義幸. 血液透析患者における新型コロナウイルスワクチン4回目接種に対する液性免疫応答および関連因子の検討. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page469.
5. 中井 滋, 新里高弘, 青木 猛, 大河原 晋. 透析患者の至適体液量を測定する-体組成分析vs.循環動態分析- 尿酸動態モデルから至適体液量を探る. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page364.
6. 大河原 晋, 伊藤聖学, 平井啓之, 森下義幸. 透析患者の至適体液量を測定する-体組成分析vs.循環動態分析- 臓器内局所酸素飽和度変化からみた体液量適正化の意義と透析低血圧発症の予知. 日本透析医学会雑誌 (1340-3451) 57巻Suppl.1 Page364.

現在、臨床研究を中心に、透析患者における様々な病態と体内臓器内血行動態および酸素動態との関連について、生理学的アプローチから検討を行っていく予定である。透析療法における透析生理学の知見を深められるように研究を進めていく予定である。